

企業名： サンケン電気

レポート名： サンケンレポート 2022

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

サンケン電気は「独自性のある技術、人と組織のパフォーマンスで成長し、社会のイノベーションに貢献する高収益企業の実現」という経営理念を掲げている。当社は、後にも述べるが、独自性の高い「すり合わせ技術」を用いていること、海外市場への進出や新製品開発を積極的に行っていることがこのレポートから読み取ることができ、目指している将来の姿を理解できることに加え、その理想像に近づくために具体的にどのようなことを行っているのかも理解できる。

また、インタビューにおいて高橋広社長はすべてのステークホルダーから信頼される企業グループを目指している、と述べておられた。上記のように、当社は設定した目標に向かって着実に成長しており、それが実際に実績の数値として表れていることが分かる。これは企業の利害と大きなかかわりを持つステークホルダーにとっては信頼に値するか否かの決め手ともなるだろう。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

サンケン電気の競争優位性は主に 3 つあることが理解できた。グローバルネットワーク体制を基としたグローバル生産力・供給力・技術サポート力、環境への配慮、圧倒的な技術力である。

当社は早くからグローバルマーケットの成長性を見据え、1990 年のアレグロマイクロシステムズインクの設立を端緒として全世界に生産・販売ネットワークを形成してきた。現在では、世界 13 の国と地域に事業を展開しており、地域別売上高構成比をみると、売上高全体のうち約 73%がアジアをはじめとする海外である。環境に関しては、世界的な目標となっている SDGs を意識して、具体的な目標数値を定めて取り組みを行っていた。ESG 推進の一環としてサステナビリティ委員会を中心に気候変動への対応を含む様々な環境課題について審議する、環境マネジメント会議が行われている。脱炭素、生物多様性、廃棄物管理の 3 つに分けてそれぞれにおいて KPI を定め、進捗を管理している。また、サンケン電気は他社の追随を許さない「すり合わせ技術」を用いている。これは複数の要素技術を統合し、最適化し、モジュールやシステムとして商品化するということであり、幅広い業界のお客様から高い評価を得ている。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上記の競争優位性はすべて持続性があると考えた。新型コロナウイルスやロシアによる

ウクライナ侵攻に伴う地政学的なリスクの高まりによって先行きに不透明を残すこととなっており、これらのことが原因で、実際アメリカにある 1 社の生産効率が低下したことや、サンケンコアの利益率が伸び悩んだことなどはあった。しかし、当社はリスクマネジメントに長けており、今後起こりうる事業上のリスクとその対応をすでに考えていたため、長期的に成長できると考えた。実際、コロナの影響によって 2020 年度は売上高が少し落ちてしまったが、次年度はすぐに持ち直し、過去 5 年で最も高い売上高であった。また、CO2 排出量も年々減少してきており、当社の競争優位性には持続性が十分にあると理解できた。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

サンケン電気は人財育成ポリシーのうちの 1 つに「管理者は部下の成長支援の責任がある。成長意欲の醸成、成長機会の提供、フィードバックを行うとともに、率先垂範し、自己成長に務める」とあった。また、社員の成長は会社の成長につながるという考えのもと、数多くの教育研修が行われている。その研修は新入社員だけではなく、管理職クラスにも行われているほか、語学研修や異文化におけるビジネス研修なども行われている。これらのことによって入社初期だけではなく、定年までの長期間で自己の成長を実感でき、国外についても多くのことを知ることができるため、良い経験を積めるのではないかと感じた。

また、当社は「社員一人一人を尊重し、すべての社員に公平に接する」という経営理念のもと、ダイバーシティを推進しており、国籍や文化、性別、年齢、障がいなどの属性に関わらず、個人を尊重し、認め合い、公平性を保つことで能力を最大限発揮できる職場環境づくりに取り組んでいる。そのために実際にダイバーシティ推進チームを発足させており、うわべの目標だけではなく、実現に向けて着実に歩んでいることがうかがえる。このようにお互いのことを尊重し、認め合うことができる職場環境では、社員もためらわずに意見を言うことができ、そのことによってより良い企業へ成長していく、という好循環が生まれると思ったので、この会社では自身の人的資本の価値向上を達成できると考えた。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

まずはよかった点について述べていく。多くの色が使われており、とてもカラフルで見やすい。図が多くあり、協調したいところが大きな文字で記されていることも印象的だった。また、ところどころコラムがページの最後に設けられており、そのページに関連するもので、さらに詳しく述べられていたのがとても分かりやすかった。

次に改善点について述べていく。同業種であるイビデン株式会社や京セラ株式会社に比べて報告書は統一感に欠けている印象であった。イビデンはイメージカラーである青、京セラは赤、をそれぞれ基調として作っていた。もちろんカラフルにすることは大事だが、ロゴに使用されている青などを基調として報告書を作るべきであると感じた。また、最初から最後まで通して読んだが、ところどころ内容的に重複しているなど感じた。例えば、ESGや環

境に関する説明が数回登場していた。テーマごとにまとめことで、より見やすい報告書になるのではないかと思った。さらに、イビデンや京セラは役員一人一人に関する経歴や選任理由について細かく記載があったが、当社は 3 人の説明しかなかった。より透明化を図るためには当社も一人一人の説明を行うべきである。

**【参考文献】**

サンケン電気統合報告書 2022

[\\*00.pdf \(eir-parts.net\)](#)

最終閲覧日：2023/7/28

イビデン株式会社統合報告書 2022

[2022IntegratedReportA3.pdf \(ibiden.co.jp\)](#)

最終閲覧日：2023/7/28

京セラ株式会社統合報告書 2022

[all.pdf \(kyocera.co.jp\)](#)

最終閲覧日：2023/7/28